

令和 6 年度 福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 次 第

日時：令和 6 年 1 2 月 1 9 日（木）

1 6 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0

場所：あいれふ 第 2 研修室

1 開 会

2 委員紹介

3 議 事

（１）令和 5 年度活動報告及び令和 6 年度活動方針について

（２）市販薬のオーバードーズアンケート結果について

（３）最近の薬物乱用の情勢について
（福岡県警本部薬物銃器対策課）

（４）その他

4 閉 会

資料一覧	
資料 1	令和 6 年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 次第（本紙）
資料 2	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会設置要綱
資料 3	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会委員等名簿
資料 4	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会座席表
資料 5	令和 6 年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 薬物乱用防止対策活動 資料
資料 6	オーバードーズに関するアンケート調査結果
資料 7	市販薬のオーバードーズに関する調査票まとめ

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会設置要綱

（設置目的）

第 1 条 薬物乱用問題について、早期の予防教育や地域での啓発指導の充実を図り、総合的かつ効果的な防止対策を推進するため、関係機関相互の緊密な連携及び啓発活動を目的とし、福岡市薬物乱用防止対策推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（構成）

第 2 条 協議会の構成は次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長、委員、幹事
- (2) 会長は委員の互選により定める。
- (3) 副会長は会長の指名により定めるものとし、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- (4) 委員は関係機関の長又は機関の長が適当と認めた職にある者を充てる。
- (5) 幹事は関係機関等の職員を充てる。

（任期）

第 3 条 委員及び幹事（以下「委員等」という。）の任期は 2 年とする。ただし、任期中であっても本来の職を離れたときは委員等の職を失い、本来の職の後任のものが委員等の職を引き継ぐ。

- 2 補欠及び増員により選任された委員等の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 委員等の再任は妨げない。
- 4 委員等は任期終了後であっても次期改選までは委員等の職を務める。

（会議）

第 4 条 会議は、協議会及び幹事会とする。

- 2 協議会は、必要に応じて会長が召集し、会長が議長を務める。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、協議会に関係者の出席を求め、その意見または説明を聞くことができる。

（活動内容）

第 5 条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 薬物乱用防止対策に関する総合的な計画の検討
- (2) 各関係機関相互の情報交換
- (3) 地域住民や他の関係機関への啓発・広報活動

（事務局）

第 6 条 事務局は福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課に置く。

（委任）

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、協議会に必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 12 年 8 月 17 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 5 年 3 月 7 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 6 年 10 月 11 日から施行する。

令和 6 年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 委員等名簿

	関係機関等	役職等	氏名
会長	福岡市薬剤師会	会 長	木原 太郎
副会長	福岡大学	名誉教授	藤原 道弘
委 員	福岡市医師会	常任理事 (小児科医)	植山 奈実
〃	福岡市医師会	常任理事	早渕 雅樹
〃	福岡市薬剤師会	副会長	高木 淳一
〃	福岡県警察本部生活安全部少年課	課 長	中村 健一
〃	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課	課 長	三島 博明
〃	福岡市保護司会連絡協議会	会 長	芹野 正通
〃	福岡市青少年育成連絡会	会 長	堤田 寛
〃	福岡市子ども会育成連合会	副会長	吉田 直信
〃	福岡市 P T A 協議会	副会長	沖田 由香
〃	福岡市民生委員児童委員協議会	副会長	岡部 敏治
〃	福岡市衛生連合会	会 長	石井 早苗
〃	西南学院大学学生支援部学生課	課 長	渡辺 清仁
〃	第一薬科大学	副学長	小松 生明
〃	福岡市こども未来局	理 事	石井 美栄
〃	福岡市教育委員会	教育次長	福田 大二郎
〃	福岡市区長会	早良区長	満生 美保
〃	福岡市市民局	理 事	平田 謙悟
〃	福岡市保健医療局	理 事	田中 雅人
幹 事	福岡市薬剤師会	常務理事	吉村 宏
〃	福岡県警察本部生活安全部少年課	課長補佐	川崎 和範
〃	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課	課長補佐	佐田 剛
〃	福岡保護観察所処遇部門	統括保護観察官	大中 ふみ
〃	福岡市こども未来局こども政策部こども健全育成課	課 長	香月 千恵
〃	福岡市こども未来局こども総合相談センター連携支援担当	課 長	久保 健二
〃	福岡市教育委員会教育支援部健康教育課	課 長	松吉 泰直
〃	福岡市教育委員会指導部中学校教育課	課 長	竹内 義則
〃	区青少年担当代表（中央区総務部企画振興課）	課 長	大藺 一郎
〃	福岡市市民局生活安全部防犯・交通安全課	課 長	米倉 照貴
〃	福岡市保健医療局保健所精神保健・難病対策部精神保健・難病対策課	課 長	水崎 亜紀
〃	福岡市保健医療局健康医療部精神保健福祉センター	副所長	吉川 賢次
〃	福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課	課 長	肥前 昌一郎

（事務局）福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会座席表

令和6年12月19日(木) 16:30~18:00
あいれふ 第2研修室

	(会 長 席)	(副 会 長 席)	
	福岡市薬剤師会 キハラ 木 原 委 員	福岡大学 フジワラ 藤 原 委 員 (欠 席)	
福岡市薬剤師会 タカキ 高 木 委 員	○	○	福岡市保護司会連絡協議会 事務局長 ワタナベ 渡 邊 氏 (代 理 出 席)
福岡県警察本部 少年課少年育成係長 ヤマサキ 山 崎 氏 (代 理 出 席)	○	○	福岡市青少年育成連絡会 ツツミダ 堤 田 委 員
福岡県警察本部 薬物銃器対策課長補佐 サダ 佐 田 氏 (代 理 出 席)	○	○	西南学院大学 ワタナベ 渡 辺 委 員
福岡市PTA協議会 オキタ 沖 田 委 員	○	○	福岡市教育委員会教育次長 フクダ 福 田 委 員
福岡市区長会(早良区長) マンショウ 満 生 委 員	○	○	福岡市市民局生活安全部長 ワシズ 鷺 頭 氏 (代 理 出 席)
福岡市保健医療局理事 タナカ 田 中 委 員	○		

事務局

随行者席

資料 5

令和 6 年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 薬物乱用防止対策活動 資料

資 料 目 次

令和５年度活動報告及び令和６年度活動計画

関係機関等名称	該当ページ
(１) 福岡県警察本部	
①生活安全部少年課	１～２
②暴力団対策部薬物銃器対策課	３～４
(２) 福岡市薬剤師会	５～８
(３) 福岡保護観察所	９～１０
(４) 福岡市関係各局	
①こども未来局こども総合相談センター	１１～１２
②こども未来局こども健全育成課	１３～１４
③各区企画振興課等	１５～１８
④教育委員会中学校教育課	１９～２０
⑤市民局防犯・交通安全課	２１～２２
⑥各区保健福祉センター健康課	２３～２４
⑦保健医療局精神保健福祉センター	２５～２６
⑧保健医療局医薬務・衛生推進課	２７～２８

令和5年度活動報告

所属	福岡県警察本部生活安全部少年課		担当者	川崎、山崎	電話番号	092-641-4141	内線(	3076	)
全体の評価	○ 小・中・高等学校等における薬物乱用教室(非行防止教室を含む)の内容を大麻乱用防止に重点指向し、大麻が違法かつ精神病等を引き起こす危険性の高いものであること等についての指導・教育を実施した。 ○ 県薬務課と協働したインターネットやSNSによる動画配信等の広報啓発活動を実施した。 ○ 福岡市の大麻乱用少年の検挙人員は、令和5年中46人(前年比+24人)と増加し、有職少年を中心に乱用が広がり、深刻な状況にある。								
次年度改善事項	○ 本年度も引き続き大麻乱用防止に重点を置いた薬物乱用防止教室を小・中・高校生を中心に開催していく。 ○ 有職・無職少年の薬物乱用防止対策として、SNS(X)や動画配信アプリ(Youtube)、街頭ビジョンを活用した広報啓発活動を推進していく。 ○ 県薬務課と協働し、引き続き少年用大麻再乱用防止プログラム(F-CAN)を推進していく。								
対象者	○ 広報啓発活動の対象者として、小・中・高校生、有職・無職少年、一般市民等 ○ 取締対象者として、薬物乱用少年並びに少年に対し薬物を売買又は譲渡等した者(福祉犯被疑者) ○ 立ち直り支援対象者として薬物依存等の問題を抱える少年とその保護者								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
令和5年中	薬物乱用防止教育	福岡市内	小学校	1533人(12回)	福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員	パワーポイント		福岡市教育委員会	・令和5年度中 33回(前年比+6回)
			中学校	4047人(12回)		リーフレット			
			高校	3305人(9回)		啓発DVD			
			専門学校・大学						
令和5年中	インターネット、SNS等を活用した広報啓発活動		市民全般		少年課	動画配信(Youtube)	県薬務課		・街頭ビジョン(ソラリアビジョン、TAMAYAビジョン)や福岡市役所内にて啓発動画を放映 ・NO DRUG,KNOW DRUGキャンペーン参加
						SNS(X)			
						リーフレット			
令和5年中	薬物乱用少年等の検挙補導	福岡市内	シンナー乱用少年	0人	警察署				・前年比 シンナー乱用少年 ±0人 覚醒剤乱用少年 -1人 大麻乱用少年 +24人
			覚醒剤乱用少年	3人					
			大麻乱用少年	46人					
令和5年中	少年相談の受理 立ち直り支援活動	福岡市内	シンナー乱用関係	0人	福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員	ワークブック	県薬務課	児童相談所	・前年比 +3人
			覚せい剤乱用関係	0人		リーフレット		保護観察所	
			大麻乱用関係	4人				医療機関	
			危険ドラッグ乱用関係	0人					

令和6年度活動計画

所属	福岡県警察本部生活安全部少年課		担当者	川崎、山崎	電話番号	092-641-4141	内線(	3076	)
全体の目標	○ 大麻乱用防止に重点を置いた薬物乱用防止教育及び広報啓発活動の推進 ○ 薬物乱用少年等の検挙・補導活動 ○ 薬物乱用少年に対する立ち直り支援活動(再乱用防止)								
活動内容	○ 小・中・高校生を対象とした薬物乱用防止教室の開催 ○ SNSや動画配信アプリ(YouTube)、街頭ビジョン、報道機関等を利用した広報啓発活動 ○ 薬物乱用少年の検挙・補導活動並びに少年に対し薬物を売買又は譲渡等する者(福祉犯被疑者)の取締り ○ 薬物依存等の問題を抱える少年に対する相談受理及び他機関と連携した立ち直り支援活動(F-CANを活用)								
対象者	○ 広報啓発活動の対象者として、小・中・高校生、有職・無職少年、一般市民等 ○ 取締り対象者として、薬物乱用少年並びに少年に対し薬物を売買又は譲渡等した者(福祉犯被疑者) ○ 立ち直り支援対象者として薬物依存等の問題を抱える少年とその保護者								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
令和6年中	薬物乱用防止教育	福岡市内	小学校		福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員	パワーポイント		福岡市教育委員会	
			中学校			リーフレット			
			高校			啓発DVD			
			専門学校・大学			薬物サンプル			
令和6年中	インターネット、SNS等を活用した広報啓発活動		市民全般		少年課	動画配信	県薬務課		※ DAP (薬物乱用防止広報車)
						県警HP			
						街頭ビジョン			
						DAP			
令和6年中	薬物乱用少年等の検挙補導	福岡市内	シンナー乱用少年		・警察署				
			覚醒剤乱用少年						
			大麻乱用少年						
令和6年中	少年相談の受理 立ち直り支援活動	福岡市内	シンナー乱用関係		福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員		県薬務課	児童相談所	
			覚せい剤乱用関係					保護観察所	
			大麻乱用関係					医療機関	
			危険ドラッグ乱用関係						

令和5年度活動報告

所属	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課		担当者	佐田、川元	電話番号	641-4141		内線(3272、3273)	
全体の評価	薬物事犯対策の強化により、地域警察による街頭活動及び薬物乱用者に対する取締りの検挙者は、全薬物事犯922人で、覚醒剤事犯の検挙者は371人、大麻事犯の検挙者は過去最多となる475人(前年比+126人)であった。また、大麻事犯の検挙者のうち若年層の割合は約80.2%(前年比+7.1%)と高水準で推移しており、更なる若年層に対する大麻乱用防止対策の強化が必要である。								
次年度改善事項	薬物乱用者及び薬物供給者の徹底検挙。 若年層に対する大麻乱用防止を中心とした広報啓発活動を継続し、薬物乱用防止啓発の推進を図る。								
対象者	市民全般								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	違法薬物乱用者及び密売事犯の検挙 水際対策による薬物密輸事件の検挙	県警本部及び県内各警察署	被疑者	922				検察庁	麻薬取締部と連携し、大麻栽培事件及び覚醒剤密売事件を検挙。 門司税関と連携し、覚醒剤・大麻等密輸入事件を検挙。
								麻薬取締部	
								門司税関	
								海上保安庁	
通年	薬物事犯者に対する再乱用防止に関する指導の実施	県警本部及び県内各警察署	乱用者	433		リーフレット等		検察庁	各警察署においてリーフレット等の配布を実施。
通年	覚醒剤、大麻等薬物乱用防止講演の実施	県内大学	大学生	約6,500	警察官	リーフレット			年間を通して県内大学において薬乱講義を実施。
						パワーポイント			
						啓発DVD			
通年	NO DRUG,KNOW DRUGイベントに対する支援・参加	ららぽーと福岡	市民全般	来訪者		リーフレット等	薬剤師会	市内大学	キャンペーンへの参加、支援の実施。
								門司税関	

令和6年度活動計画

所属	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課		担当者	佐田、川元	電話番号	641-4141		内線（ 3272、3273 ）	
全体の目標	薬物乱用者の徹底取締り及び薬物密売組織等供給源の遮断								
活動内容	薬物乱用者の徹底検挙及び薬物供給源の壊滅と資金源剥奪に向けた取締りの推進 若年層を中心に大麻の有害性・危険性を認識させる大麻乱用防止の広報啓発活動の推進								
対象者	市民全般								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	違法薬物乱用者及び密売事犯の検挙 密輸事犯に対する取締り	県警本部及び県内各警察署	被疑者					検察庁	関係機関と連携した薬物事犯の徹底検挙
								麻薬取締部	
								門司税関	
								海上保安庁	
通年	薬物事犯で検挙した被疑者らに対する再乱用防止に関する指導の実施	県警本部及び県内各警察署	乱用者			リーフレット等		検察庁	県警本部及び各警察署における指導の実施
通年	大麻を中心とした薬物乱用防止講義の実施	県内大学	大学生		警察官	リーフレット			薬乱防止講義の実施
						パワーポイント			
						啓発DVD			
通年	NO DRUG,KNOW DRUG等薬物乱用防止イベントに対する支援・参加		市民全般			リーフレット等	薬剤師会	市内大学	イベントの支援・参加
								門司税関	

令和5年度活動報告

所属	一般社団法人 福岡市薬剤師会		担当者	吉村 宏	電話番号 092-714-4416			
全体の目標	少年の大麻の乱用は増加傾向にあり、特に10代20代の増加が顕著である。薬物乱用防止の基本は「正しい知識」の普及である。小中学生、高校生だけでなく、大学生及び社会人に対しても、薬物乱用防止の啓発、特に「大麻」の正しい知識の普及に注力する。「向精神薬」や「一般用医薬品」の乱用防止の基本は「くすりの正しい使い方」であり、薬剤師職能として取り組む。							
次年度以降改善事項	福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会の三者主催で継続している「NO DRUG, KNOW DRUGキャンペーン」は、更に連携の輪を広げ市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。 コロナ禍以降、啓発イベント開催を実施し、SNS, WEB配信等を活用し若年層に向けての情報発信を行った。今後は閲覧数を増やすために有償での配信を検討する。 今年度より、特に増加傾向にある青少年の「一般用医薬品の乱用」と「大麻の正しい情報」をメインテーマとした。また、「福岡市薬物乱用防止街頭キャンペーン」「政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン」の継続参加実施を目指す。学校、地域における講演活動の充実を図り、児童、生徒、学生及び市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。							
対象者	児童・生徒・学校関係者および一般市民							
年間活動計画								
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材, 資料	連携機関	
			種別	人数			共催	協力
令和5年4月 ～令和6年3月	学校、地域における薬物乱用防止、喫煙・飲酒防止、くすり教育の講演活動。	学校、地域	児童、生徒、保護者、学校関係者、地域市民		学校薬剤師			
7月7日	薬物乱用防止キャンペーン	福岡大学	大学生、教職員		薬剤師		福岡市	<主催> 福岡市薬剤師会
7月16日	政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン	博多駅	一般市民		薬剤師		福岡市	<主催> 福岡市薬剤師会
7月1日～9月3日	NO DRUG, KNOW DRUGキャンペーン	・FM福岡から啓発コメント放送 ・会員薬局での啓発活動 ・会員薬局、学校、公民館その他協力団体での啓発ポスター掲示 ・協力団体で啓発ポスターをデジタルサイネージで放映 ・ソラリアビジョンでの啓発動画放映 ・啓発YouTubeの制作・公開 ・啓発ラジオ番組の制作・放送	一般市民					<主催> 福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会
	NO DRUG, KNOW DRUG啓発イベント	日程：9月3日（日） 会場：キャナルシティ博多	一般市民					
9月	NO DRUG, KNOW DRUGイベント総集編制作放送	FM福岡ラジオ番組	一般市民					<主催> 福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会
10月～11月	各区健康フェア		一般市民		薬剤師			各区保健福祉センター
1月	「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する図画ポスター」優秀作品の福岡市薬剤師会会長表彰		表彰人数 小学生4名 中学生3名					<主催> 福岡市学校保健会

研修会協議会への参加								
6月11日	第74回指定都市学校保健協議会	福岡市	学校薬剤師	9人		WEB配信		日本薬剤師会、文科省、日本学校保健会
8月1日	第21回九州地区健康教育研究大会	熊本市	学校薬剤師	2人		現地開催		日本薬剤師会
9月17日～18日	第56回日本薬剤師会学術大会	和歌山市	学校薬剤師	2人		現地・WEB配信		日本薬剤師会
9月23日～24日	第82回九州山口薬学大会	長崎市	学校薬剤師	2人		現地開催		日本薬剤師会
10月12日～13日	令和5年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	広島市	学校薬剤師	2人		現地開催		文科省、日本学校保健会
10月26日～27日	令和5年度全国学校保健・安全研究大会	神戸市	学校薬剤師	3人		現地開催		文科省、日本学校保健会
10月26日	第73回全国学校薬剤師大会	神戸市	学校薬剤師	3人		現地開催		日本薬剤師会
2月17日	第27回福岡市学校薬剤師研究大会	福岡市	薬剤師	全会員対象				福岡市薬剤師会

令和6年度活動計画

所属	一般社団法人 福岡市薬剤師会		担当者 吉村 宏		電話番号 092-714-4416	内線()			
全体の評価	少年の大麻の乱用は増加傾向にあり、10代20代が顕著である。薬物乱用防止の基本は「正しい知識」の普及である。小中学生、高校生だけでなく、大学生及び社会人に対しても、薬物乱用防止の啓発、特に「大麻」の正しい知識の普及に注力した。「向精神薬」や「一般用医薬品」の乱用防止の基本は「くすりの正しい使い方」であり、薬剤師職能として取り組む								
活動内容	福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会の三者主催で継続している「NO DRUG, KNOW DRUGキャンペーン」は、更に連携の輪を広げ市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。SNS, WEB配信等を活用し若年層に向けての情報発信を行う。今年度も、特に増加傾向にある「市販薬の過剰摂取(オーバードーズ)」「大麻に関する正しい情報」を2つのテーマとして取り組む。 継続開催している「福岡市薬物乱用防止街頭キャンペーン」を大学等で開催し、「政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン」の継続参加実施を目指す。学校、地域における講演活動の充実を図り、児童、生徒、学生及び市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。								
対象者	児童・生徒・学校関係者および一般市民								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材, 資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
令和6年4月 ～令和7年3月	学校、地域における薬物乱用防止、喫煙・飲酒防止、くすり教育の講演活動。	学校、地域	児童、生徒、保護者、学校関係者、地域市民		学校薬剤師				
7月16日	政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン	博多駅前	一般市民		薬剤師		福岡市	<主催> 福岡市薬剤師会	
7月5日	薬物乱用防止啓発街頭キャンペーン	福岡大学構内					福岡市薬剤師会	<主催> 福岡市	
7月1日～9月1日	NO DRUG, KNOW DRUGキャンペーン	・FM福岡から啓発コメント放送 ・会員薬局での啓発活動 ・会員薬局、学校、公民館その他協力団体での啓発ポスター掲示 ・協力団体に啓発ポスターをデジタルサイネージで放映 ・啓発ラジオ番組制作・放送(FM福岡より)	一般市民					<主催> 福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会	SNS等の配信により若年層に届けることが出来た。またイベント終了後においても閲覧数が増える結果となった
	NO DRUG, KNOW DRUG啓発イベント	・三井ショッピングパーク ららぽーと福岡	一般市民						
9月8日	NO DRUG, KNOW DRUG 啓発イベント 特別番組	FM福岡ラジオ番組	一般市民		薬剤師			<主催> 福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会	
10月～11月	各区健康フェア		一般市民		薬剤師			各区保健福祉センター	
1月	「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する図画ポスター」優秀作品の福岡市薬剤師会会長表彰		表彰人数 小学生3名 中学生3名					<主催> 福岡市学校保健会	

研修会・協議会への参加									
6月5日	第75回指定都市学校保健協議会	札幌市	薬剤師	3人		現地		日本薬剤師会、文科省、日本学校保健会	
9月22日～23日	第57回日本薬剤師会学術大会	さいたま市	学校薬剤師	2人		現地・WEB配信		日本薬剤師会	
10月24日～25日	令和6年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	富山市	学校薬剤師	2人		現地		文科省、日本学校保健会	
11月7日～8日	令和6年度全国学校保健・安全研究大会	宮崎市	学校薬剤師	6人		現地・WEB配信		文科省、日本学校保健会	
11月7日	第74回全国学校薬剤師大会	宮崎市	学校薬剤師	6人		現地・WEB配信		日本薬剤師会	
2月1日	第28回福岡市学校薬剤師研究大会	福岡市	薬剤師	全会員対象				福岡市薬剤師会	

令和5年度活動報告

所属	福岡保護観察所		担当者	大中	電話番号	092-761-6799			
全体の評価	薬物再乱用防止プログラムの確実な実施及び関係機関との連携強化に努めた。								
次年度改善事項	薬物専門保護司研修については、令和5年度で一旦終了し、研修受講保護司の対象を広げるとともに、受講方法として動画研修を積極的に取り入れるなど学習方法の選択肢を増やす。また、保護観察対象者等が地域の支援機関に繋がり、いかに安定して地域生活が送れるようになるかを引き続き検討していきたい。								
対象者	保護観察対象者								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物再乱用防止プログラム	福岡保護観察所	保護観察対象者	976名(延べ人数)	保護観察官及び協力者(心理士)	薬物再乱用防止プログラムワークブック		ダルク マック AA	簡易薬物検出検査及び認知行動療法を使ったグループワークで、対象者の再乱用防止指導を行った。
年2回	薬物専門保護司研修(2回、内1回は動画研修) 薬物事犯者引受人会(1回)	福岡保護観察所	保護司引受人	保護司7名	九州厚生局麻薬取締部、九州ダルク、福岡市精神保健福祉センター	適宜作成		講師等と同じ	保護司や引受人に対する薬物依存症者への理解促進に向けた研修を実施した。
				引受人8名					
				(参集分)					
通年	F-can(少年用大麻プログラム)への動機付け	福岡保護観察所	保護観察対象者(少年)	要件該当者	福岡県警少年サポートセンター			講師等と同じ	少年大麻事案に対し、F-canへの動機付けを行った。
通年	ボイスブリッジプロジェクトのリクルート活動	福岡保護観察所	保護観察対象者	要件該当者	福岡県・福岡市精神保健福祉センター			講師等と同じ	薬物事犯者に対し、ボイスブリッジプロジェクトへの参加を促した。

令和6年度活動計画

所属	福岡保護観察所		担当者 大中		電話番号 092－761－6799				
全体の目標	薬物再乱用防止プログラムの確実な実施及び関係機関との連携強化を図る。								
活動内容	対象者一人一人に応じた薬物再乱用防止プログラムを実施する。また、当該プログラム終了後を見据えて、本人に必要な支援をアセスメントした上で支援体制を構築できるよう、地域の支援機関の情報を収集し、対象者や家族に情報提供するなど積極的に働きかけを行う。								
対象者	保護観察対象者								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物再乱用防止プログラム	福岡保護観察所	保護観察対象者	976名(延べ人数)	保護観察官及び協力者(心理士)	薬物再乱用防止プログラムワークブック		ダルク マック AA	大麻使用者の集団プログラム実施など、より個別性を重視したプログラム実施方法を検討する。
年1回/年2回	依存症を理解する研修(動画)/引受人会/各保護司会定例研修	福岡保護観察所(飯塚駐在官事務所含む)	保護司引受人	引受人会各20名程度	九州大学/医療機関・福岡市精神保健福祉センター			講師等と同じ	対象者の身近な支援者に依存症の理解を深めさせるとともに、地域の支援に繋がりにやすいように社会資源を紹介する。
通年	F-can(少年用大麻プログラム)への動機付け	福岡保護観察所	保護観察対象者(少年)	要件該当者	福岡県警少年サポートセンター			講師等と同じ	少年の大麻事案に対して、F-canへの動機付けを行う。
通年	ボイスブリッジプロジェクトのリクルート活動	福岡保護観察所	保護観察対象者	要件該当者	福岡県・福岡市精神保健福祉センター			講師等と同じ	薬物事犯者に対して、ボイスブリッジプロジェクトへの参加を促す。

令和5年度活動報告

所属	こども未来局こども総合相談センター	担当者	永元	電話番号	707-7572	内線()			
全体の評価	こどもや子育てに関するさまざまな相談に対して、児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施した。								
次年度改善事項	特になし								
対象者	概ね20歳までの子ども等やその家族、関係者、子どもに関する各種団体等								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	電話による相談対応	こども総合相談センター	電話相談	11,181	相談員は、臨床心理士等の有資格者			福岡少年サポートセンター	児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施した。
			※このうち、薬物を主訴とする相談は0件						

令和6年度活動計画

所属	こども未来局こども総合相談センター		担当者	永元	電話番号	707-7572	内線()		
全体の目標	こどもや子育てに関するさまざまな相談に対して、児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施する。								
活動内容	電話による相談対応								
対象者	福岡市に居住するこどもやその家族等								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	電話による相談対応	こども総合相談センター	電話相談		相談員は、臨床心理士等の有資格者			福岡少年サポートセンター	児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施する。

令和5年度活動報告

所属	こども未来局こども健全育成課		担当者	中村	電話番号	711-4188	内線(	1764)	
全体の評価	令和5年度中に20歳となる者を対象とし、薬物乱用防止に係る啓発活動を行うことができた。								
次年度改善事項	イベントの場などを利用し、引き続き啓発を実施する。								
対象者	令和5年度中に20歳となる者								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
1月8日	成人の日記念行事式典の開会前に、薬物乱用防止動画を上映し、啓発を行った。	マリンメッセ福岡A館	20歳の方			啓発動画			

令和6年度活動計画

所属	こども未来局こども健全育成課		担当者	中村	電話番号	711-4188	内線(	1764)	
全体の目標	青少年の薬物乱用防止を図る。								
活動内容	イベントの場などを利用し、啓発を実施する。								
対象者	令和6年度中に20歳となる者								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
1月13日	成人の日記念行事式典の開会前に、薬物乱用防止動画を上映し、啓発を行う。(予定)	マリンメッセ福岡A館	20歳の方			啓発動画			

令和5年度活動報告

所属		各区企画振興課等(こども未来局こども健全育成課)									
		東区生涯学習推進課		担当者	鬼丸	電話番号	645-1121	内線(	141-470	)	
		博多区企画振興課		担当者	彌吉	電話番号	419-1043	内線(	142-217	)	
		中央区企画振興課		担当者	宮本	電話番号	718-1055	内線(	143-416	)	
		南区企画振興課		担当者	延壽	電話番号	559-5064	内線(	144-236	)	
		城南区企画振興課		担当者	上野	電話番号	833-4065	内線(	190-226	)	
		早良区地域支援課		担当者	春瀬	電話番号	833-4403	内線(	145-435	)	
		西区企画振興課		担当者	石丸	電話番号	895-7033	内線(	191-229	)	
年間活動報告											
実施時期		活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価	
				種別	人数			共催	協力		
東区	6月10日	東区少年愛護パトロール員の研修会において、薬物乱用をはじめとする少年非行の実態などについて講話を実施	東保健所講堂	少年愛護パトロール員	27	東区警察署少年課長 下本高之氏			東区青少年育成連絡協議会		
				校区青少年育成連絡協議会等会長	5						
	10月7日	東区少年愛護パトロール員研修会において、講話と研修を実施	東区役所301会議室	少年愛護パトロール員	22	福岡市教育委員会指導部安全・安心推進課主査 池田 武裕氏			東区青少年育成連絡協議会		
博多区	6月7日	博多区少年愛護パトロール員研修会	博多区役所	博多区少年愛護パトロール員	27名	福岡少年サポートセンター少年育成指導官 上野敬子氏				少年愛護パトロール員の青少年非行防止に対する理解をより深めた	
	11月24日				19名	NPO法人子どもとメディア 黒田 可奈子氏					
中央区	3月12日	少年愛護パトロール員・校区青育連会長を対象に、研修会では警固公園に集まる、所謂「警固キッズ」の現状について学習	中央児童会館	少年愛護パトロール員	11	中央警察署 少年課 少年係長			中央警察署		
				区青育連会長	10				こども健全育成課		
南区	3月8日	南保護区保護司会主催の薬物乱用防止キャンペーンに協力し、街頭キャンペーンを行う。	大橋駅西口	南保護区保護司会、南区役所、南警察署	20人程度		リーフレット等啓発物	南区保護区保護司会(主催)	南警察署		

城南区	7月12日	薬物乱用防止を含む、青少年非行状況を報告するとともに、啓発物の配布を行った。	城南区役所 大会議室	校区青育団体、子ども会育成会関係者	35		リーフレット等啓発物		保健医療局	啓発物を配布し、広く啓発活動を行った。
	10月29日	「ふれあい城南フェスティバル」の会場において、薬物乱用防止にかかる啓発物の配布を行った。	城南市民センター	小中学生、保護者、地域住民等来場者	約2800		啓発物	ふれあい城南運営委員会	保健医療局	啓発物を配布し、広く啓発活動を行った。
早良区	6月16日 および 11月30日	早良区少年愛護パトロール員研修会において、少年非行の実態などについて講演等を実施。	早良市民センター	早良区少年愛護パトロール員	22名 および 21名	早良区非行防止対策推進員				愛護パトロール員の少年非行に対する理解をより深めることができた。
	1月14日	青少年を対象としたイベント「早良区ゆめ未来フェスタ」において、薬物乱用防止ポスターの掲示と来場者へ啓発物の配布を実施。	早良市民センター	中学生 保護者 地域住民	420名		ポスター 啓発物		保健医療局	ポスターの掲示および啓発物の配布により、広く啓発活動を行うことができた。
西区	7月	青少年の非行・被害防止強調月間に合わせ、各校区でキャンペーングッズを活用（公民館にグッズを設置し自由に持ち帰ってもらう等）し啓発活動を行った。	各校区	市民	約6,000 （啓発物資 配布数）		啓発物資	西区青少年育成連絡会		
	11月～1月	子ども・若者育成支援強調月間に合わせ、各校区で街頭キャンペーンを実施、キャンペーングッズの配布を行った。	各校区	市民	約6,000 （啓発物資 配布数）		啓発物資	西区青少年育成連絡会		
	11月26日	西区青少年文化祭終了後、街頭キャンペーングッズの配布を行った。	西区役所及び姪浜駅付近	市民	約100 （啓発物資 配布数）		啓発物資	西区青少年育成連絡会		

令和6年度活動計画

所属		各区企画振興課等(こども未来局こども健全育成課)									
		東区生涯学習推進課		担当者	鬼丸	電話番号	645-1121	内線(	141-470	)	
		博多区企画振興課		担当者	彌吉	電話番号	419-1043	内線(	142-217	)	
		中央区企画振興課		担当者	宮本	電話番号	718-1055	内線(	143-416	)	
		南区企画振興課		担当者	延壽	電話番号	559-5064	内線(	144-236	)	
		城南区企画振興課		担当者	上野	電話番号	833-4065	内線(	190-226	)	
		早良区地域支援課		担当者	春瀬	電話番号	833-4403	内線(	145-435	)	
		西区企画振興課		担当者	石丸	電話番号	895-7033	内線(	191-229	)	
年間活動計画											
実施時期		活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標	
				種別	人数			共催	協力		
東区	6月8日	東区少年愛護パトロール員の研修会において、薬物乱用をはじめとする少年非行の実態などについて講話を実施	東区役所301会議室	少年愛護パトロール員	25	東区警察署生活安全課長 平野大紀氏			東区青少年育成連絡協議会		
				校区青少年育成連絡協議会等会長	3						
	10月5日	東区少年愛護パトロール員研修会において、講話と研修を実施	東区役所301会議室	少年愛護パトロール員	21	福岡市教育委員会指導部安全・安心推進課主査 池田 武裕氏			東区青少年育成連絡協議会		
				校区青少年育成連絡協議会等会長	1						
博多区	6月5日	博多区少年愛護パトロール員研修会	博多区役所	博多区少年愛護パトロール員	21名	春日・大野城・那珂川防犯指導員連絡会会長 金子 昌隆氏				少年愛護パトロール員の青少年非行防止に対する理解をより深める	
	11月18日				未定	元少年育成指導官堀井智帆氏					
	7月6日	博多区青少年健全育成・非行防止キャンペーン	博多駅前	博多保護区保護司会・青少年育成連合会等	約100名	-		博多保護区保護司会	博多署 博多駅商店連合会 青少年育成連合会等	啓発物を配布し、広く啓発活動を行う	
	中央区	7月	「社会を明るくする運動」中央区大会	中央市民センター	市民	450	水谷 修 氏		中央保護区保護司会		
									中央区更生保護女性会		
									福岡保護観察所		
								中央区役所			
2月		青少年指導者研修	中央区役所	青育連等	20	未定					

南 区	3月7日	南保護区保護司会主催の薬物乱用防止キャンペーンに協力し、街頭キャンペーンを行う。	大橋駅西口	南保護区保護司会、南区役所、南警察署	20人程度		リーフレット等啓発物	南区保護区保護司会(主催)	南警察署		
城 南 区	7月12日	薬物乱用防止を含む、青少年非行状況を報告するとともに、啓発物の配布を行う。	城南区役所 大会議室	校区青育団体、子ども会育成会関係者	30		リーフレット等啓発物		保健医療局	啓発物を配布し、広く啓発活動を行う。	
	11月	「ふれあい城南フェスティバル」の会場において、薬物乱用防止にかかる啓発物の配布を行う。	福岡大学	小中学生、保護者、地域住民等来場者	約3000		啓発物		保健医療局	啓発物を配布し、広く啓発活動を行う。	
早 良 区	6月25日 および 11月26日	早良区少年愛護パトロール員研修会において、少年非行の実態などについて講演等を予定。	早良市民センター	早良区少年愛護パトロール員	各回約30名	早良警察署生活安全課係長、早良区非行防止対策推進員			早良警察署	愛護パトロール員の少年非行に対する理解をより深める。	
	2月20日	早良区青少年育成連絡協議会(全体会)において、薬物乱用防止の啓発物の配布を行う。	早良市民センター	委員	24名		啓発物				青少年育成連絡協議会委員の薬物乱用防止についての意識を啓発する。
2月23日	青少年を対象としたイベント「早良区ゆめ未来フェスタ」において、薬物乱用防止ポスターの掲示と来場者へ啓発物の配布を予定。	早良体育館	中学生 保護者等	約300名		ポスター 啓発物			保健医療局	ポスターの掲示および啓発物の配布により、広く啓発活動を行う。	
西 区	5月	西区少年愛護員研修会において、薬物乱用をはじめとする少年非行の実態などについて講話を行う。	西区役所会議室	西区少年愛護員・西区青少年育成連絡会委員	15	福岡少年サポートセンター 金田律子氏			西区青少年育成連絡会		
	7月	青少年の非行・被害防止強調月間に合わせ、各校区でキャンペーングッズを活用し啓発活動を実施する。	各校区	市民	約3,000 (啓発物資 配布数)	-	啓発物資	西区青少年育成連絡会			
11月～1月	子ども・若者支援強調月間に合わせ、各校区でキャンペーングッズを活用し啓発活動を実施する。	各校区	市民	約5,000 (啓発物資 配布数)	-	啓発物資	西区青少年育成連絡会				

令和5年度活動報告

所属	福岡市教育委員会 指導部 中学校教育課		担当者	黒松琢磨	電話番号	711-4639	内線(	3722)	
全体の評価	・「第5次薬物乱用防止五か年戦略」を受けて、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の組織的・計画的な推進を図る。 ・指導者研修会(各校1名悉皆)は、大学准教授(医師)の講話や、県の薬務課より大麻乱用防止対策についての説明を計画。 ・教科及び生徒指導との連携を図る、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の計画。								
次年度改善事項	・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会の開催 ・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施 ・全小中学校における健康教育年間指導計画の作成と教育指導計画の位置づけ								
対象者									
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
6月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施状況調査		小学校	145校					全校作成・提出
			中学校	70校					
			高校	4校					
5～3月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室		小学校	145校	学校薬剤師、少年サポートセンター等				全校実施
			中学校	70校					
			高校	4校					
6月19日	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会		教職員	228人	九州大学准教授 眞崎義憲 薬務課主任技師 平井 祥一				専門的な内容で各校の防止教育が推進できる内容で実施
6月～11月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育研修会		教職員	市立学校職員	学校薬剤師、少年サポートセンター、学校管理職等				各学校の実態に応じた内容の充実

令和6年度活動計画

所属	福岡市教育委員会 指導部 中学校教育課		担当者	黒松琢磨	電話番号	711-4639	内線(	3722)	
全体の評価	・「第5次薬物乱用防止五か年戦略」を受けて、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の組織的・計画的な推進を図る。 ・指導者研修会(各校1名悉皆)は、大学准教授(医師)の講話や、県の薬務課より大麻乱用防止対策についての説明を計画。 ・教科及び生徒指導との連携を図る、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の計画。								
次年度改善事項	・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会の開催 ・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施 ・全小中学校における健康教育年間指導計画の作成と教育指導計画の位置づけ								
対象者									
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
6月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施状況調査		小学校	146校					全校作成・提出
			中学校	70校					
			高校	4校					
5～3月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室		小学校	146校	学校薬剤師、少年サポートセンター等				全校実施
			中学校	70校					
			高校	4校					
6月12日	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会		教職員	229人	九州大学准教授 眞崎義憲 薬務課主任技師 平井 祥一				専門的な内容で各校の防止教育が推進できる内容で実施
6月～11月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育研修会		教職員	市立学校職員	学校薬剤師、少年サポートセンター、学校管理職等				各学校の実態に応じた内容の充実

令和5年度活動報告

所属	市民局防犯・交通安全課		担当者	山中	電話番号	711-4054		内線(	1772)	
全体の評価	市民に対する違法薬物乱用防止啓発活動の推進									
次年度改善事項	防犯の出前講座において薬物乱用防止の啓発を行う。									
対象者	市民									
年間活動報告										
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価	
			種別	人数			共催	協力		
通年	出前講座	福岡市内	大学生及び専門学生等	-	生活安全専門員	パワーポイント、DVD			危険ドラッグの危険性及び後遺症等の啓発を行う。	

令和6年度活動計画

所属	市民局防犯・交通安全課		担当者	山中	電話番号	711-4054	内線(	1772)	
全体の目標	市民に対する違法薬物乱用防止啓発活動の推進								
活動内容	防犯の出前講座において薬物乱用防止の啓発を行う。								
対象者	市民								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	出前講座	福岡市内	大学生及び 専門学生等		生活安全 専門員	パワーポイ ント、DVD			危険ドラッグの危険性 及び後遺症等の啓発 を行う。

令和5年度活動報告

所属	各区保健福祉センター健康課(保健予防課)		担当者	辛川	電話番号	711-4377	内線(	2062)	
全体の評価	薬物に関する相談は、本人からの相談が多く、依存や入院治療に関する助言を行った。								
次年度改善事項	引き続き関係機関と連携を図り、薬物乱用防止を推進していく。								
対象者	薬物依存等の問題を抱える当事者とその家族等								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物に関する相談業務	各区健康課 精神保健福祉係	窓口	9	保健師、 精神保健福祉士、 精神保健福祉職員				前年度より相談件数が増え、依存に関する相談内容が最も多かった。
			電話	31					

令和6年度活動計画

所属	各区保健福祉センター健康課(保健所)		担当者	池田	電話番号	711-4377	内線(	613)	
全体の目標	引き続き薬物に関する問題を抱える当事者とその家族等に対する相談を実施し支援する。								
活動内容	相談業務(窓口、電話)								
対象者	薬物依存等の問題を抱える当事者とその家族								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物に関する相談業務	各区健康課 健康づくり 係・保健所	窓口		保健師、 精神保健 福祉士、 精神保健 福祉職員				
			電話						

令和5年度活動報告

所属	精神保健福祉センター		担当者	山田・牛島	電話番号	737-8825	内線	(192-6620)	
全体の評価	・薬物依存に関する相談件数は、新型コロナウイルス蔓延と同時に以前の約1/2～1/3程度に減少しており、行動自粛要請解除後も低い水準を維持している。 ・教室やプログラムについては、参加者が減少しており、回によっては参加者がいない日もあった。								
次年度改善事項	・近年、依存症としての問題意識を抱きにくい大麻の乱用や、市販薬依存など、相談に繋がりにくい事例が増えているため、相談件数の多寡が現況を反映しているか疑問がある。啓発活動など、より市民目線に近い活動を検討する。 ・教室やプログラムについては、現状や運営体制等を分析し、今後の対応を検討する。								
対象者	薬物依存症当事者・家族、市民、行政・医療・保健・福祉・司法関係者等で薬物依存問題に関わる職員								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	・依存症専門電話相談 火・木 10時～13時 ・依存症専門医師面接相談 月4回(予約制)	精神保健福祉センター	電話	45	精神科医 臨床心理士 精神保健福祉士				コロナ自粛の影響もあってか、コロナ前の水準に比べて相談件数は減少している。
			面接	10					
通年	依存問題(アルコール・薬物等)で悩む家族のための教室	あいれふ	家族	66	精神保健福祉センター職員など	ワークブック			参加者が減少しており、広報の仕方や教室のあり方について検討が必要。
通年	薬物依存症者回復支援プログラム	あいれふ	当事者	41	精神保健福祉センター職員など	ワークブック			参加者がいない回も多々あり、広報の仕方や教室のあり方について検討が必要。
8月、2月	依存症支援者連携会議	あいれふ	支援機関	61	—				薬物依存と自殺問題の関連性をテーマに実施

令和6年度活動計画

所属	精神保健福祉センター		担当者	山田・牛島	電話番号	737-8825	内線（ 192-6620 ）		
全体の目標	・昨年度に引き続き、幅広い関係機関との連携や市民への情報発信に努める。								
活動内容	薬物依存問題に関する相談、依存問題で悩む家族のための教室、薬物依存者回復支援プログラム、依存症支援者連携会議								
対象者	薬物依存症当事者・家族、市民、行政・医療・保健・福祉・司法関係者等で薬物依存問題に関わる職員								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
通年	・依存症専門電話相談 火・木 10時～13時 ・依存症専門医師面接相談 月4回(予約制)	精神保健福祉センター			精神科医 臨床心理士 精神保健福祉士				薬物依存の相談件数そのものは減っているものの、電話が繋がりにくいという声はあるため、増枠を検討する。
通年	依存問題(アルコール・薬物等)で悩む家族のための教室	あいれふ			精神保健福祉センター職員など	ワークブック			他都市やこれまでの実施状況を分析し、今後の事業の方向性を検討する。
通年	薬物依存症者回復支援プログラム	あいれふ			精神保健福祉センター職員など	ワークブック			他都市やこれまでの実施状況を分析し、今後の事業の方向性を検討する。
9月、2月	依存症支援者連携会議	あいれふ							関係団体の相互理解と連携強化を図る

令和5年度活動報告

所属	保健医療局健康医療部地域医療課		担当者	嶋田	電話番号	791-7263	内線(199-922)		
全体の評価	関係部署や地域住民との連携を図り、薬物乱用防止啓発をより充実させた。 若年層に対し大麻等の危険性について重点的に啓発を行った。								
次年度改善事項	薬物乱用防止啓発キャンペーンイベント等により広く市民への啓発を行うほか、昨年度から引き続き若年層への啓発を重点目標とし、大学関係者等との連携のもと、学生への啓発を行った。								
対象者	市民								
年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		評価
			種別	人数			共催	協力	
4月	学校へのリーフレット配付による啓発		大学・短期大学	24校 4,860枚		リーフレット			新入学・新学期の時期に各学校で啓発の機会を設けた。
5月	学内LANによる啓発メールの送信		大学・短期大学	7校 35,857人				市民局 市内大学・短期大学	福岡市内に所在する大学及び短期大学生の新入生に対し薬物に関する啓発を行った。
5～6月	不正大麻・けしの啓発 不正けしの抜去	各保健所 市内各地域	市民				各保健所他	各保健所	市内に自生していたけし4,569株を除去した。
6～7月	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 街頭キャンペーン							市薬剤師会、保護司会、該当区保健所、大学生	7/7に福岡大学構内で実施予定であったが、悪天候のため中止
キャンペーン期間7/1～9/3	薬物乱用防止啓発NO DRUG, KNOW DRUGキャンペーン		市民、学生等	資材300部 配布		ラジオ	市薬剤師会、FM福岡	市内大学、県警察、福岡県 等	多くの関係者・団体の協力や出演を得て、メディアによる広報を活用し、広く市民に効果的な啓発を行った。
7月	政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン						主催:市薬剤師会		資材500部を配布した。
通年	・電子看板(大型ビジョン)の放映 ・薬物乱用防止啓発ポスターの配付、掲示 ・学校や関係課への啓発資材の提供 ・薬物乱用防止啓発ホームページ	本市庁舎内 他	市民			動画 ポスター 啓発資材 ホームページ			広報啓発の充実を図った。

令和6年度活動計画

所属	保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課		担当者	嶋田	電話番号	791-7263	内線(199-922)		
全体の目標	関係部署や地域住民との連携を図り、薬物乱用防止啓発をより充実させる。 若年層に対し大麻等の危険性について重点的に啓発を行う。								
活動内容	薬物乱用防止啓発キャンペーンイベント等により広く市民への啓発を行うほか、昨年度から引き続き若年層への啓発を重点目標とし、大学関係者等との連携のもと、学生への啓発を行う。								
対象者	市民								
年間活動計画									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		目標
			種別	人数			共催	協力	
4月	学校へのリーフレット配付による啓発		大学・短期大学 専修学校			リーフレット			新入学・新学期の時期に各学校で啓発の機会を設ける。
5月	学内LANによる啓発メールの送信		大学・短期大学					市民局 市内大学・短期大学	福岡市内に所在する大学及び短期大学の新入生に対し薬物に関する啓発を行う。
5月～6月	不正大麻・けしの啓発 不正けしの抜去	各衛生課 市内各地域	市民				各衛生課 他	各衛生課	
6月～9月	市販薬のオーバードーズに関するアンケートの実施	本市ホームページ	市民 (主に学生)						オーバードーズに関する基礎データの収集のため、アンケート調査を行う。
6月～7月	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 街頭キャンペーン		市民 (主に学生)			ティッシュ、 リーフレット		市薬剤師会、保護司会、 該当区保健所、大学生	市内の大学において、大学生に向けた啓発資材の配布を行う。
キャンペーン期間7月～8月	薬物乱用防止啓発 NO DRUG、KNOW DRUGキャンペーン		市民、学生等			ラジオ	市薬剤師会、FM福岡	市内大学、 県警察、福岡県等	多くの関係団体の協賛・協力や参加を得て、さらにメディアによる広報を活用し、広く市民に効果的な啓発を行う。
7月	政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン		市民			リーフレット等	主催)市薬剤師会		
通年	・電子看板(大型ビジョン)の放映 ・薬物乱用防止啓発ポスターの配付、掲示 ・学校や関係課への啓発資材の提供 ・薬物乱用防止啓発ホームページ	本市庁舎内 他	市民			動画 ポスター 啓発資材 ホームページ			広報啓発の充実を図る。

オーバードーズに関するアンケート調査結果

1 調査概要

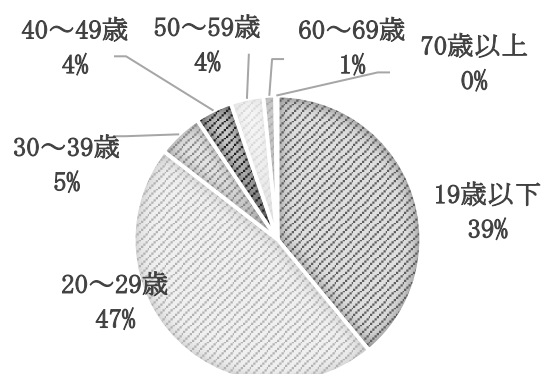
市販薬のオーバードーズ（過量服薬）に関しては、市内での広がりも懸念されているため、効果的な啓発や関係機関との連携等の施策を検討する上での基礎データを収集する目的で、主に若年層を対象に、オンラインアンケートによるオーバードーズに関する意識調査を実施した。

なお、調査にあたっては市内の大学や関係団体に協力を依頼したほか、9月1日の「NO DRUG, KNOW DRUG」キャンペーン来場者にもアンケートへの回答を呼び掛けた。

2 アンケート結果（調査期間：R6年6月20日～9月18日、回答数1,220件）

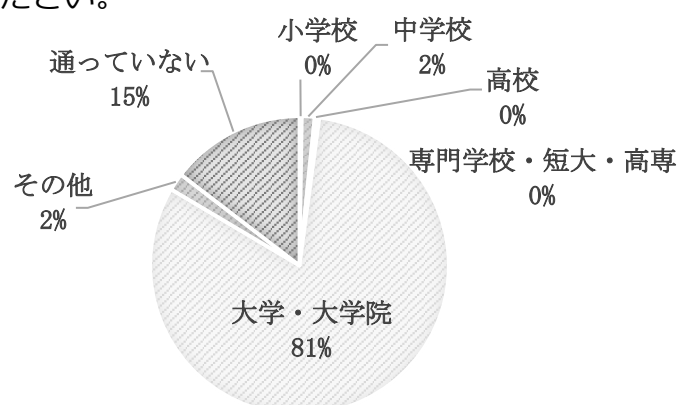
問1 回答する方の年齢を教えてください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 19歳以下 (476) | 5 50～59歳 (45) |
| 2 20～29歳 (567) | 6 60～69歳 (16) |
| 3 30～39歳 (62) | 7 70歳以上 (3) |
| 4 40～49歳 (51) | |



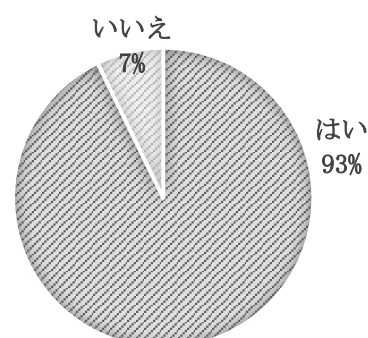
問2 現在、通っている学校の種類を教えてください。

- | |
|------------------|
| 1 小学校 (3) |
| 2 中学校 (17) |
| 3 高校 (3) |
| 4 専門学校・短大・高専 (3) |
| 5 大学・大学院 (993) |
| 6 その他 (23) |
| 7 通っていない (178) |



問3 オーバードーズという言葉を知っていますか。

- | |
|-------------|
| 1 はい (1132) |
| 2 いいえ (88) |



問4 どこで知りましたか。(複数回答)

1 テレビ (672)

2 SNS (591)

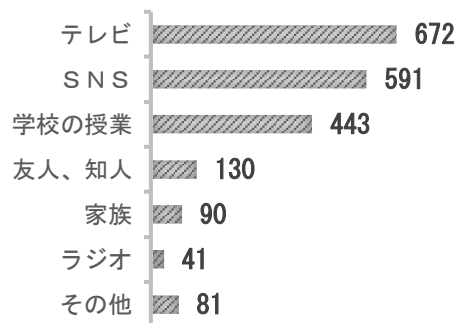
3 学校の授業 (443)

4 友人、知人 (130)

5 家族 (90)

6 ラジオ (41)

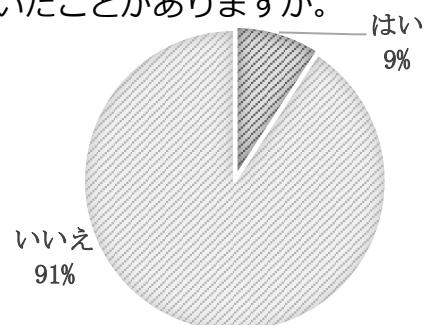
7 その他 (81)



問5 友人や知人がオーバードーズをしていると聞いたことがありますか。

1 はい (112)

2 いいえ (1108)



問6 オーバードーズをしている人の年齢を教えてください。

1 19歳以下 (60)

2 20～29歳 (61)

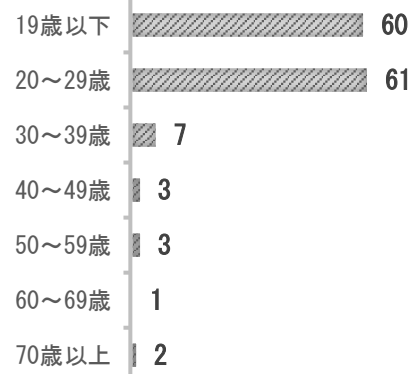
3 30～39歳 (7)

4 40～49歳 (3)

5 50～59歳 (3)

6 60～69歳 (1)

7 70歳以上 (2)



問7 その人が通っている学校の種類を教えてください。

1 小学校 (2)

2 中学校 (10)

3 高校 (26)

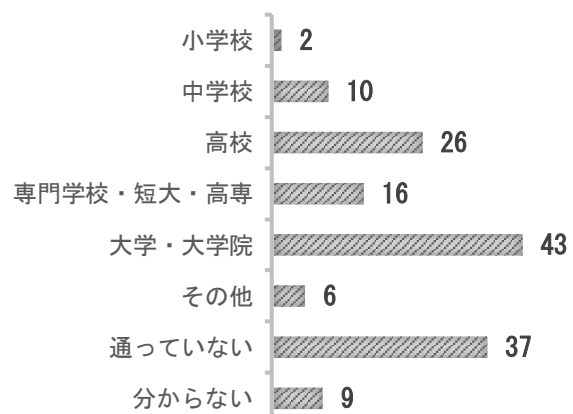
4 専門学校・短大・高専 (16)

5 大学・大学院 (43)

6 その他 (6)

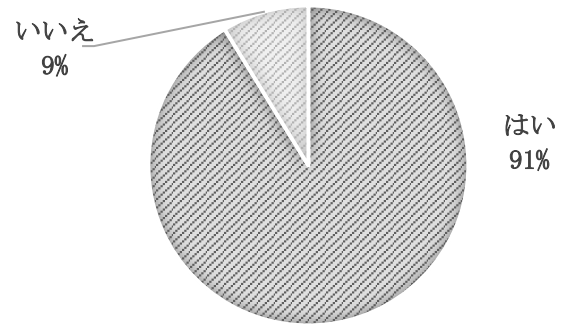
7 通っていない (37)

8 わからない (9)



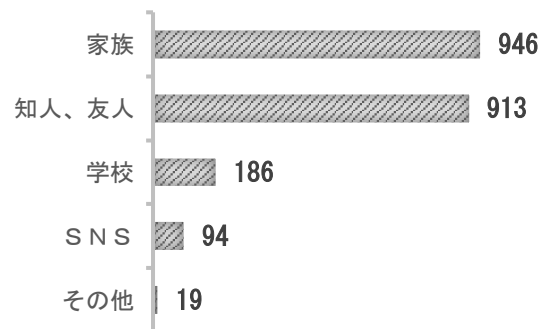
問 8 自分に悩みがある時に、相談できる人や場所はありますか。

- 1 はい (1113)
- 2 いいえ (107)



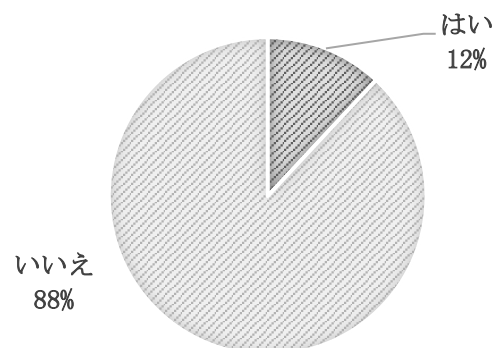
問 9 あなたが相談できる人や場所を教えてください。(複数回答)

- 1 家族 (946)
- 2 知人、友人 (913)
- 3 学校 (186)
- 4 SNS (94)
- 5 その他 (19)



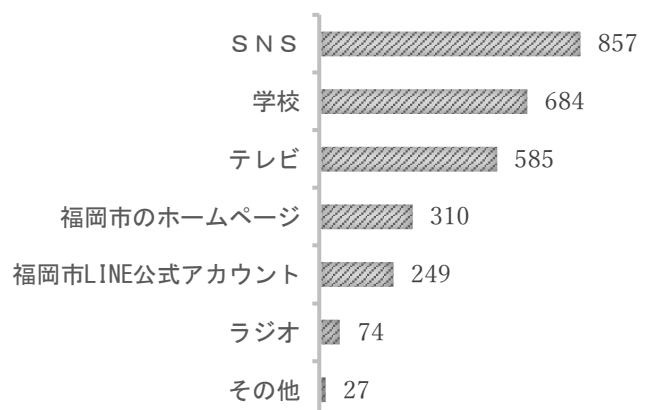
問 10 オーバードーズについて相談できる窓口を知っていますか。

- 1 はい (146)
- 2 いいえ (1074)



問 11 相談窓口の情報は、どこで案内があると利用しやすいですか。(複数回答)

- 1 SNS (857)
- 2 学校 (684)
- 3 テレビ (585)
- 4 福岡市のホームページ (310)
- 5 福岡市 LINE 公式アカウント (249)
- 6 ラジオ (74)
- 7 その他 (27)



問 12 ご意見等を自由にご記入ください。(主な回答を抜粋)

(オーバードーズのきっかけについて)

1. オーバードーズについては、興味本意でやってしまうんだと思います。
2. オーバードーズをしていた(現在は不明)友人がいた。市販で数量規制してもネットや家にある薬で実行してしまう例もあると思う。
3. SNS などのオーバードーズを示唆するような画像や書き込みに影響されてオーバードーズが助長されるケースはあると思う。私も精神的に辛い時、そういう画像を目にするとしたいと思ったことがある
4. ネットで言葉だけが先走るので正しい内容を知りたい人だけでなくみんなが学ぶ必要があると思う。

(情報発信方法について)

5. 友人が一時期自死をしようとオーバードーズをしていましたが、オーバードーズに否定から入ると本人的にはかなりしんどいと思うので、「いけません」や、「いいことはありません」といった形ではなく、24 時間待ってますなどのいつでも相談しやすい場をつくるのが大切だと思います。
6. オーバードーズという言葉は知っているがどのような対策がされているかなどがよく分からないのでその情報発信をしてほしい

(相談先について)

7. 相談窓口を知らなかったのもっと広めて欲しい
8. 知らない人に相談するのは不安
9. 最近では若者のオーバードーズ問題が目につくので相談場所をもっと SNS やテレビなどで知らせるべきだと思う。
10. 高校生の時に、オーバードーズから抜け出せなくなっている知人がいましたが、その事に触れていいのか分からないのと、相談先がわからずどうしていいかわからないことがありました。他人事では無いなと感じているため、オーバードーズや薬物乱用についての相談機関など、若い世代がよく利用する SNS など情報を伝えて欲しいです。

(啓発、教育について)

11. ただやめることを勧めるポスターなどでは意味がないと思う。やることによってどのような問題が生じるのかを伝えた方がいいと思う。(胃洗浄をしなければならない等) SNS に錠剤の写真を載せ、だめな自分に酔ってる人も多いが、ダサいことだという認識が広まったらODは減ると思う。
12. 子供ばかりでなく大人も知識に乏しいのではないかと思います
13. 子供の教育現場でもこのテーマについて考えることが大切だと思います。
14. 深い考えなく気軽にできてしまうので、防止は難しいと思う。危険性を周知していくしかないと思う

15. 当事者への注意喚起も必要だが、その周りの関係者(家族、保護者、教育関係者など)への教育も必要だと思う。オーバードーズする当事者のストレスの発散方法の選択肢があまりにも狭いようにも感じるので、視野を広げる機会を持ってくれるといいなと思う。
16. どこでも相談できる所、居場所づくりができたらいいなと願うばかりです。
17. 好奇心であれば学校などからの周知で収まる場合も多いと思いますが、自分をめちゃくちゃにしたいくて飲む人にどうしたら届くのか難しいと感じます。そういう子達が集まれる場を作ったり、直接、声をかけていくしかないような気もしています。

(その他)

18. 体を治すために開発された薬が、人を依存させ死に至らしめるものに使用される事が残念です。
19. 製薬会社や開発する方、実験などに協力された方々はそんなことに使用されることを望んでいないと思います。
20. 市販薬の購入制限によって OD という手段を断ち、子供達をさらに苦しめている気がする。物理的に制限するのではなく、心のケアなど、もっと優先する必要がある部分を強化した方がよいと思う。
21. 好奇心であれば学校などからの周知で収まる場合も多いと思いますが、自分をめちゃくちゃにしたいくて飲む人にどうしたら届くのか難しいと感じます。そういう子達が集まれる場を作ったり、直接、声をかけていくしかないような気もしています。
22. 薬の規制を行うよりも、オーバードーズしてしまうような精神状態の人に病院を勧めたり、ストレスを除去したらすることの方が大切だと思います。
23. 最近「オーバードーズ」という言葉をよく耳にします。オーバードーズは、本当に薬が必要な人に薬が届かなる原因となるかもしれないので、早く対策してほしいと思っています。あと、オーバードーズをする人は、精神的に追い込まれているとおもうので、その人たちも助けてほしいと思っています。一刻も早くオーバードーズをする人が少なくなってほしいと思っていたので、このようなオーバードーズに関するアンケートなどの取り組みがされていて、とても良いと思いました。今後も対策をさらに進めてほしいです。

市販薬のオーバードーズに関する調査票 まとめ

1 概要

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会の各幹事へ、市販薬のオーバードーズ（過量服薬）に関するアンケート調査結果を送付のうえ、各所属における市販薬のオーバードーズに関連する現在の取り組み、今後の取り組み、その他ご意見等について調査を行ったもの。

2 調査結果

(1) 市販薬のオーバードーズに関連する現在の取り組み及び今後の取り組み

関係機関等	現在の取り組み	今後の取り組み
一般社団法人福岡市薬剤師会	薬物乱用防止教育、くすり教育の際に薬の服用する意味や用法、用量や薬の飲み方を説明。また、人には自然治癒力があり、薬はあくまでもサポーターとして補助する役目であることを説明している。	10月30日の学校薬剤師研修会に、くすりの適性協議会より講師を派遣いただき、くすり教育について再認識させるとともに、薬物乱用防止教育の前に薬の正しい飲み方についての動画等を活用することを勧める予定である。
福岡県警察本部少年課	○少・中・高等学校等における薬物乱用防止教室において、生徒に対し、オーバードーズ（過量服薬）の有害性・危険性に関する教養を実施。 ○少年相談、立ち直り支援活動、街頭補導等で把握したオーバードーズに関する情報について、関係機関（学校、病院等）との情報共有。 ○県内の情勢について、県薬務課との情報共有。	○左記取り組みを継続しながら、オーバードーズに関する現状の把握に努める。
福岡県警察本部薬物銃器対策課	薬物110番による薬物に関する相談受理（違法薬物のみならず、オーバードーズを含め薬物全般の相談を受理している。）	・薬物110番による相談受理の継続 ・オーバードーズに関する相談を受理した際は、相談関係先を紹介するなどし、関係機関と連携した対応を図る。

福岡保護 観察所	薬物再乱用防止プログラムの中で取り上げている。また、対象者の生活歴や面接場面でオーバードーズの経験を把握した場合に、その行動に至る要因を検討した上で処遇を行うほか、医療機関の受診を勧めるなど対策を検討している。	保護司に対する研修などで、日頃の対象者の指導や支援に生かせるよう、オーバードーズに関する知識を得る機会を設ける。
こども未来局こども健全育成課	薬物乱用防止に関する啓発は行っているが、オーバードーズに関連する取り組みは行っていない。	未定。
こども未来局こども総合相談センター	市販薬のオーバードーズに関する相談を受けたときには、医療機関や精神保健福祉センター等への相談を案内している。	現在の取り組みを継続する。
教育委員会健康教育課	なし	なし
教育委員会中学校教育課	・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室 ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会 ・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育研修会	・「第6次薬物乱用防止五か年戦略」を受けて、各学校の実情および喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施状況調査を勘案し、必要に応じて活動内容を見直していく。
各区青少年担当課	（東区 生涯学習推進課） 東区少年愛護パトロール員の研修会において、東警察署の方から薬物乱用（オーバードーズを含む）をはじめとする少年非行の実態の講話を実施している。	（東区 生涯学習推進課） 来年度の研修会でも、オーバードーズを含む薬物乱用に関する青少年の実態について講話をする予定。 また、アンケート調査にもあるように、相談先を知らない人もいるので、研修会で相談窓口の周知に努める。
	（博多区 企画振興課） 特になし	（博多区 企画振興課） 未定

	(中央区 企画振興課) 子ども関係団体等への研修で、薬物等に関する研修等を行っている。	(中央区 企画振興課) 引き続き、子ども関係団体等への研修で、薬物等に関する研修を行うほか、市販薬のオーバードーズに関する研修も行っていく。
	(南区 企画振興課) なし	(南区 企画振興課) なし
	(城南区 企画振興課) 各校区青少年育成団体代表者や子ども会関係者が出席する会議や研修において、オーバードーズを含む薬物乱用防止のリーフレット等啓発物の配布を行っている。	(城南区 企画振興課) 左記の取り組みを継続するとともに、各校区での青少年育成団体の定例会等での配布を依頼する。
	(早良区 企画振興課) 薬物乱用全般について、青少年イベント等で啓発物の配布等を行っているが、オーバードーズに特化した取り組みは現在行っていない。	(早良区 企画振興課) 地域パトロール等で青少年と接触する機会の多い少年愛護パトロール員の方々が、オーバードーズが疑われる事象に遭遇した際に適切な対応ができるように、研修等の機会を通じて相談窓口等の情報を共有し、オーバードーズについて理解を深める。
	(西区 企画振興課) 特になし。	(西区 企画振興課) 市販薬のオーバードーズの危険性について研修会で取り上げるなど、地域の青少年育成組織および関係団体への周知方法を検討する。
市民局防犯・交通安全課	特になし	特になし
保健医療局精神保健・難病対策課	各区保健福祉センター健康課における相談業務（窓口・電話にて実施）	今後も継続して本人、家族等への相談を行う。また、オーバードーズに関する相談窓口の認知度が低い状況から、相談先の周知や啓発活動を行う。

保健医療局精神保健福祉センター	1 福岡市若者及び依存症に対する自殺対策事業 「市販薬依存・ゲーム依存相談ダイヤル」 特定非営利活動法人ジャパンマックに委託し、水・土曜日 10:00～13:00、月、第1土曜日 17:00～20:00 に電話相談を実施 2 相談ダイヤルのちらし作成、配布：自殺対策事業のパネル展での配布、自殺対策ポスターと一緒に大学、高校等に送付 3 薬物依存症等の専門相談の中で、希望があれば支援団体や医療機関を紹介している	1、2 引き続き現在の取り組みを継続 3 市民のニーズに応じて適切に支援を続けていく
保健医療局医薬務・衛生推進課	・大学生に向けた街頭キャンペーンで啓発資材を配布。 ・NO DRUG, KNOW DRUG キャンペーンで、覚醒剤、大麻等の薬物乱用や市販薬のオーバードーズの危険性について啓発。 ・市販薬のオーバードーズに関する基礎データの収集のため、アンケート調査を実施。	啓発に関する取組を継続して実施。 アンケート調査の結果を受け、新たにオーバードーズの相談窓口に関する啓発動画を作成し、周知する。